

「なぜイノシシがどるの?」

鳥獣害対策講習会 in 西小磯西地区を開催しました

■現状は?

みんなでイノシシを「餌付け」している状況

イノシシは本来、「暑がり」・「怖がり」・「怠け者」ですが、わざわざ人里に出てくるのは人間が「餌」を用意しているからです。

例えば、収穫せずに放置している栗や柿、畑の脇に捨てている売り物にならないミカンや野菜などです。雑草もイノシシの餌になります。特に、冬に青々と生えている柔らかい若草。これは10月以降、頻繁に草刈をする

と生えてきます。イノシシにとってはこれが、餌の少ない冬に生き残るための貴重な餌になります。加えて荒廃農地の草やブなどの「潜み場」があれば、「怖がり」のイノシシでも安心して人里に出てこられます。

このような状況では、人間が「餌」と「潜み場」を作って「餌付け」しているようなものなのです。

人里でイノシシが増えている
こうなるとイノシシは、大量の餌を安心して一年中食べられる人里で、子育てをするようになります。年間5頭前後を出産し、普通はそのうち1〜2頭が成獣になるところ、栄養状態が

良くなることで5頭すべてが成獣になります。その結果、どんどんイノシシが増えていくことになりま

■対策は?

「餌付け」をやめること

「餌」と「潜み場」をできるところから少しずつ無くして「餌付け」をやめれば、被害は減っていきます。

このような方法で、実際に被害を減らすことに成功した地域が、島根県や熊本県など、主に西日本で徐々に増えてきています。

例えば話として、さばいた魚の頭を台所に放っておくとハエが来ます。ハエがこないようにするには、当然、魚の頭を片付けます。駆除だけ一生懸命やっているイノシシ対策は、魚の頭を片付けないでハエを一匹ずつ殺しているようなものであり、い



落ちたミカンを食べるイノシシ (町内で撮影)

つまで経つてもその数が減っていくことはありません。

■ポイントとは?

対策は順番が大事!

大切なことは、対策を進める順番です。

〈対策の順番〉

- ★一番目：地域みんなで勉強。
- ★二番目：農地や地域全体をイノシシから守りやすい、「餌付け」をしない環境に改善。
- ★三番目：柵などで農地を囲う。
- ★駆除は、最後に!!

この順番が逆だと効果は表れません。イノシシを増やしながら駆除しても被害は減っていきません。だからその前に「餌付け」をやめることが必要です。しかし、一人でやっても効果はなく、地域みんなでやる必要があります。そのために、まずやることは「みんなで勉強」することです。

ここで紹介した内容は、今年度、全4回の連続講習会の内容の抜粋です。

町では、地域ぐるみでイノシシ対策を進めていくために、今後も講習会を開催していきます。
産業観光課 ☎内線262

「平塚市・大磯町・二宮町共同消防指令センター」の竣工について(お知らせ)

2月19日(日)に、平塚市役所新庁舎3階に設置された平塚市・大磯町・二宮町共同消防指令センターで竣工式が行われました。大磯町内で発生した火災や救急などの119番通報は、現在、消防署の通信指令室で受信しています。

今後は、最新の機能を備えた共同消防指令センターで各市町の消防職員が24時間体制で対応し、1市2町の119番通報を受付け、消防署等に出動を指示し出動部隊との無線交信が行われます。

▼名称 平塚市・大磯町・二宮町共同消防指令センター
消防署 ☎(61) 0911



交通安全栄誉章「緑十字金章」を受賞されました!

永年にわたり交通安全活動に尽力されておられる山口武夫さん(国府本郷在住)が交通安全栄誉章「緑十字金章」を受章されました。

山口さんは、昭和46年から平成25年まで交通指導員として、町民の交通安全に携わり、その後、大磯地区交通安全協合理事として活躍されています。

また平成23年から、地域交通安全活動推進委員としての活動も行われています。ますますのご活躍を期待しています。
町民課 ☎内線237



下水道作品コンクールで入賞!

公益財団法人 神奈川県下水道公社主催の下水道作品コンクールで、応募総数4,150点の中から入賞されました。

◇書道の部

入賞 田中 琴葉さん(国府小) 表彰式は2月5日(日) 茅ヶ崎市民文化会館で行われました。

下水道課 ☎内線214